

「天才クイズアカデミー」

三嶽
咲

登場人物

青松香澄 (15) クイズ研究会
有馬勇輝 (15) クイズ研究会
東聡 (15) クイズ研究会

青松静 (48) 香澄の母

井山 (15) 元クイズ研究会

山崎仁 (54) 香澄の担任

宮崎 (15) 香澄と有馬のクラスメイト

青松修 (47) 香澄の父

司会者 (35) 鹿児島県地区予選司会者

司会者 B (38) Atoz司会者

石田 (15) マンガ研究会部長

男子生徒

男子生徒 A

男子生徒 B

男子生徒 C

男子生徒 D

クラスメイトの女子

教師 A

鹿児島市民文化ホール・外観

同・大ホール

司会者「あなたは、世界にワクワクしてますか？」

スポットライトの当たった司会者。

背には“高校生クイズ・ザチャンピオン”と書かれているボード。

司会者「20周年を迎える高校生知力ナンバーワン決定戦、“高校生クイズザ・チャンピオン”。規格外のひらめき力、大人をも凌駕する知識力、そして瞬発力。全てを兼ね備えた真の知の巨人のみが手にできる、全国への切符。さあ、鹿児島県代表をかけた本大会、決勝に進んだ二校のうち、勝利の女神はどちらに微笑むのでしょうか？」

ファンファーレの音楽と共に、演出でブルー調の照明に変わる会場。

青松香澄（15）、有馬勇輝（15）、

東聡（15）の三人、『セザール学園』

と書かれたゼッケンを着て、会場に立っている。

三人の手は一つの解答ボタンに置かれ、重なり合っている。

香澄、聡を見て頷く。

香澄、有馬を見て頷く。

二人に頷き、一点を集中する香澄。

司会者「それでは、運命の時間です。問題

……」

回想・セザール学園・旧校舎

面接を受けている私服姿の香澄。面接官の中に、山崎仁（54）。面接官の資料の中に香澄の中学の成績表。オール5。受賞歴もずらりとある。

頷く面接官たち。

山崎「将来の夢は何ですか？」

香澄「宇宙物理学者です。これからの1000年で変わる宇宙の新常識を見つきたいです」

山崎「部活は、中学では入っていないようですよ。我が校は部活推奨校です。入りたい部活はありますか？」

香澄「はい、全国大会常連校のクイズ研究会に入って、クイズプレイヤーとして名を馳せている有馬勇輝さんと切磋琢磨していきたいです」

山崎「有馬、ですか……」
顔を見合わせる面接官たち。

旧校舎の壁、歴代卒業生の写真。廊下にはトロフィーたちが並んだ棚。クイズ研究会の優勝トロフィー。

T 『天才クイズアカデミー』

車の中（朝）

ど田舎、山奥のボロボロの道。

猛スピードで車を運転している青松静（48）。静、いかつい体に似合わないベージュの女性らしいスーツを着て、胸元にはコサージュをあしらっている。

膝丈スカートもお構いなしで股を開いて運転している。

一方助手席には香澄。香澄はセーラー制服姿。『複素解析』を読んでいる。

寝癖がついている。

桜島が見える山道。

セザール学園・外観（朝）

山奥のミッション系の古い建物。大正時代風の学生帽を被った着た生徒たちが登校している。

香澄 N 「少子高齢化、地方の過疎化、そして男女教育機会均等：時代の流れは変えられない。九州片田舎の名門男子校、セザール学園は今年、女子受け入れの門戸を開くことになった」

セザール学園・体育館（朝）

入学式。300人の生徒。2割が女子。マイクの前にバンダナをした山崎仁。

山崎「新入生代表、青松香澄」

シーンとしている。

山崎「青松香澄……」

車の中（朝）

香澄、思い出したように腕時計を見る。

香澄「……もお、何であと10分早く出れな

かったわけ！？いつつもそう！」

静「ああ？誰のせいだと思ってんだよ！」

香澄、唇を尖らせ静を睨みつける。

回想・青松家・ダイニング（朝）

テーブルの上いっばいに朝ごはんがある。香澄、日経新聞を読みながらむし

やむしや食べている。トマトを丸齧り

しようとするが、一瞬制服を見る。

足元には読み終えた南日本新聞。拾い

上げ、ビリビリーっと破りナプキン

代わりにする。

新聞の一面、『伝説のプロレスラー』

“パッション青松”鹿児島にプロレス
団体設立」。

キッチンには目玉焼きを焼いている青
松修（47）。

真っ赤な女子プロレスのコスチューム
の格好をし、香澄の前に座り優雅にコ
ーヒーを飲み始める静。

香澄「（大きな溜息）」

静「何さ」

香澄「ああ白々しい。ん、用意してるから」

指を指した先、地味なスーツがハンガ
ーに吊るしてある。

静、無視してコーヒーを啜る。

意地になって香澄、スーツを取り、静
の前に持ってきて差し出す。

香澄「ん！」

車の中（朝）

静「まったく、狂ってるよあんたは！自分のお年玉はたいてこんな気色悪い服親に買うなんて！」

香澄「はあ？普通の母親ならこんなことしません！これまで全部ママのせいで恥ずかしい思いしてるんだからリスクヘッジするのは当然でしょ！本当、非常識」

静「ばーろう、あれはママの一張羅なんだよ……ママがそんなに恥ずかしいかよ」

香澄「あったり前じゃん！まじで、ママ変だもん」

静「変だあ？セザールをトップ合格するような子が一番変だろ……いっつも香澄はそうだよ。恥ずかしいとか、変だとか、肝心なところで変に引っ込み思案。それこそ、変。ママの娘なら、胸張って一流の変になんな！」

前の車の老人、よぼよぼ運転。

静「危ねえな、追い越しちゃえ」

アクセルを踏む静。

スピードの反動で頭を打つ香澄。

セザール学園・体育館（朝）

山崎「ルネサンス期に、万能人と呼ばれる知力にも体力にも富んだ人たちがいました：中でも有名なレオナルドダヴィンチは：」
聡がピシッとした姿勢で聞いている。
空白の席。

バスの中（朝）

寝癖。イビキをかき大口を開け寝てる有馬。

バスの運転手「一番後ろのいつもの君！セザール学園ですよ！」

有馬「んあ？」

セザール学園校門前（朝）

ゆっくり歩いている有馬。ボサボサの髪、メガネ、すらっとした背。なぜか赤いランドセルを背負っている。

香澄「ギリギリ間に合いそ！」

香澄と静が走って有馬の横を通りすぎる。

同・体育館（朝）

雑壇の『入学式』のパネル、撤収作業中。全く間に合っていない。入り口に立つ静と香澄。ポトツと手に持っていた学生鞆が落ちる。背後にもう一人生徒が現れる。

有馬「……」

眉毛の辺りをぽりぽり搔いて、体育館を立ち去る。

同・外

校舎の窓から身を乗り出して何人もの男子生徒が有馬を見つけて大手を振っている。その中に、聡がいる。

聡「鞆どしたん」

有馬、ピースサインをして、

有馬「俺何組？」

と大声で叫ぶ。

男子生徒「A組だよ！早く来いよ！」

走るフリだけして、ゆっくり歩いて校

舎に入って行く有馬。

香澄は有馬を目で追っている。

同・1 A教室（朝）

山崎「えー、それからなるべく部活には入る
ように」

ガラッと開く扉。

教室に入った瞬間、山崎とクラス中の
生徒が香澄に視線をやる。有馬だけは
寝ている。

香澄「……てへ？」

黒板の上には『雲外蒼天』の校訓。

香澄の後ろの席、有馬。赤いランドセ
ルが机の横にかけてある。

山崎「青松！良かった、事故にでもあったかと心配したぞ……新入生代表挨拶すっぽかしたのはセザール史上初だぞ……」

てへ、という顔をする香澄。

山崎「まあ、無事なら良かった。こっちへ来なさい、みんな、全員揃ったし自己紹介始めろぞー」

山崎、バシッと有馬の頭を出席ノートで叩く。

有馬「痛っ！」

香澄「女子学院出身、青松香澄。クイ研に入りたくて、ここに入学しました」

有馬、『クイズ研究会』にピクリとす
る。

香澄、不器用に会釈する。

山崎、座っている有馬に合図する。

有馬「有馬勇輝、内部進学生、以上」

香澄、『有馬勇輝』という言葉にピクリとする。

山崎「一言」

有馬「（顔をぱりぱり掻き）：寝る子は、育つ！」

山崎「赤のランドセルにした理由は何ね？」

有馬「常識を疑う実験ですね」

着席する勇輝と、振り返る香澄。

香澄「有馬勇輝って、去年、最年少でA t o

Z優勝したあの？」

有馬「あ？ああ」

香澄「お前かー！！！」

香澄の大声に、クラスがシンとする。

香澄「私、有馬あなたを越えるために、この

学校に来たの」

有馬「はあ。それは心底くだらないねえ」

寝る体制に入る有馬。

香澄「は？」

キレた顔の香澄。

回想・A t o Z 決勝大会

舞台上に早押しボタンが並び、必死にクイズをしている大学生達。

机に貼られた紙には、“東京大学 鈴木歩夢” “京都大学 関口彰人” など有名大学生ばかり。
端っこの席“セザール学園 有馬勇輝”。

香澄N「有馬勇輝。クイズプレイヤーなら誰もが憧れるAtozという大舞台で、前代未聞の中学生で優勝した天才。あまりの強さに、15歳にして既にクイズ界の“皇帝”と呼ばれている男」

回想・香澄の父の書齋

分厚い大量の図鑑に囲まれた4才の香澄。巨大な恐竜図鑑を一人で目をキラキラさせて読んでいる。

香澄N「小さい頃から、知ることが好きだった。わくわくさせてくれる図鑑や本。知ることがとにかく楽しかった。クイズは、そんな私を肯定してくれた」

回想・A t o Z 予選教室

周りは一生懸命ペンを走らせる中、香澄は静かに目を閉じている。

香澄以外暗転。

難解な公式や単語がバアアアアアアつと香澄の上に降ってくる。

カッと目を開き、ものすごい勢いで回答していく香澄。

回想・A t o Z 予選教室前廊下

貼り出された予選通過者のリストを見て肩を落とす香澄。

回想・A t o Z 決勝大会

大学生たちの真ん中に、一人だけ体の小さい中学生（有馬）。体格に似合わない大きなトロフィーを持ち上げている。客席から眺めている香澄。

司会者 B 「セザール学園 3 年、有馬くん、今
どんな気持ちですか？ 大学受験の並行は大
変だったのでは？」

有馬 「あ俺中三っすよ、大学受験のことはま
だ何も考えてないっす」

司会者 B 「え？ あ、中三？ な、なんというこ
とでしょう！ ！ 有馬勇輝、最年少記録を一
気に四年も更新してここに立っているとい
うのかー！ ！」

スタンディングオベーションの会場の
中に香澄。拍手しながら、有馬のゼツ
ケンの『有馬勇輝』という名前を凝視
している。

香澄 N 「衝撃を受けた。なぜ？ 同じだけ年を
重ねたはずなのに、たった 15 年で、こん
なにも差がつくものなの？」

香澄 N 「悔しかった。それ以上に高揚した。
知りたい、どんな奴なのか、彼の強さの所
以を」

香澄の脳内

ずっと前を走る有馬の背中。

追いかける香澄。

香澄 N 「彼の目から世界はどんな風に見えるの
いるのだろうか？」

静の稽古部屋（夜）

ハンガーに掛けてある制服。

パンチングボールをひたすらパンチす

る香澄。

香澄 「むき——！なんなんアイツ——！」

パンチしまくる香澄。

同・クイズ研究会部室前廊下（夕方）

“クイズ研究会”と書かれた黄ばんだ

張り紙。

クラスメイトの女子たちと歩いている

香澄。『また明日ねー』『ばいばいー』

と挨拶を交わす。

同・クイズ研究会部室（夕方）

一人でポツンと席に座っている香澄。

誰も来ない扉。

× × ×

外は夕陽が落ちかけている。

香澄「帰ろう：」

ガラッ。

香澄「！」

立ち上がる香澄。

ドアを開けた正体は山崎。

山崎「はやり、有馬君は来てませんか」

香澄「先生：」

見つめ合う二人。

香澄「なぜここに？」

山崎「（ちよつとずっこける）僕、一応顧問。

青松：：酷なことを言うがクイ研は諦めた

方がいい」

香澄「なぜですか？」

山崎「我が校のクイズ研究会は伝統ある人気クラブ、だった。だが現在の部員はたった二人だ。なぜだかわかるか？」

香澄「有馬、ですか？」

山崎「彼は、異色だ。学校の勉強は最下位に近いのに、クイズになると異次元の強さを持つ、所謂天才だ。そしてもう一人。この学校には、天才がいる」

聡の家・聡の部屋（夕方）

P S 5 のコントローラーとクイズボタ
ンを同時に持っている手。ピコンピコ
ン、ドドドドドーンというゲーム
の音。

壁には『あと102日』と達筆な習字
の張り紙。

有馬の声「1813年に刊行された、ベネツ
ト家の次女エリザベスと資産家ダーシーの
てんやわんやな恋模様を描いたジェーン・
オースティンの長編のタイトルは何？」

器用にクイズボタンを押し、

聡「高慢と偏見！」

格闘ゲームと同時にクイズしている聡。

ゲーム画面、WINの文字。

聡「ん！ゆう、交代」

聡の顔がここで初めてはっきり映る。

品のある超イケメン。

山崎の声「東聡、有馬にも負けず劣らない頭

脳の持ち主だ」

有馬「問題文を最後まで聞きすぎだな」

聡「ゆうの作問はひっかけが多いから最後まで

で聞かないとな。ジェーン・オーステ

インの高慢と偏見で・す・が、長編何作

目？とか、高慢と偏見を書いた時彼女は何

歳だった？とか、変化球な作問者の性格が

でるからさ」

セザール学園・クイズ研究会部室（夕方）

山崎「幸運にも二人は非常に仲が良い。互いの才能を見つけ合い、ここではない場所で、二人だけで才能を伸ばし合っている」

香澄「……」

山崎「二人はあまりに圧倒的だ。周りの生徒は挫折を味わい……中には、折り合いがつかずに心を壊す人もいた」

山崎「青松は、優秀だ。わざわざ有馬と張り合う必要はない。数学研究会はどうだ？そこにも君の知的好奇心を満たしてくれる問題や、仲間ができるだろう」

香澄「わからないですね。なぜ起きてもないことを心配しないといけないんですか？」

山崎「……」

香澄「これは自分が傷つくからやらないとか、これは得だからやる、ていうのはただの小利口な生き方です。自分の心がそうしたいって叫ぶなら、私は飛び込みますよ」

聡の家・聡の部屋（夕）

クイズ・ザ・チャンピオンのエントリーシートを書いている聡。三人目が空欄。

聡「Qちゃんの三人目のメンバー、俺が決めても良い？」

有馬「誰だって同じことだ、任せる」

ハイデガールの『存在と時間』を読んでいる有馬。

聡「心当たりが一人いるんだよね。入ってくれたら、お前が雑学・芸術、俺が哲学文系、その人が理数系でバランスが完璧になる。直感でそう思う」

有馬「そういえば、うちのクラスに、クイ研志望がいたな。女だし、向上心も根性もないだろうけど」

聡「：今のは問題発言」

セザール学園・校庭

オシヤレし出している生徒たち。

同・男子トイレ（朝）

鏡の前に置かれたワックス。鏡の前で
髪にワックスをつける男子生徒A。

男子生徒B、隣で手を洗いながら、そ
の光景を眺めている。

男子生徒B「貸してくんね？」

同・旧校舎女子トイレ前（朝）

女子トイレの前、保健の先生や生徒で

長蛇の列。

女子生徒「女子トイレ一個しかないってあり
えなくない？」

セザール学園・職員室前廊下（朝）

生徒に朝の挨拶をしながら歩く山崎仁、
エロ本に気づき慌てて拾う。

男子生徒C「ジンジンのえっち〜！」

山崎「これは、もちろん生徒の！」
振り返っても、誰もいない。

山崎「……まったく」

同・1年A組教室（朝）

聡「青松さんっている？」

突然現れたイケメンにクラスの女子が
固まる。

香澄「あんた誰？」

聡「君が青松さん？入試、学年トップだった
人だよな？」

香澄「それが？」

聡「俺、B組の東聡。青松さん、クイ研に入
って俺と一緒にQチャン、いやクイズザチ
ャンピョン目指してくれませんか？もし部
活まだ決まっていなければクイ研に入っ
て欲しい！」

香澄「ふーん？有馬は了承してるの？」

チャイムが鳴る。

聡「何で有馬？とにかく、今日の放課後、部
室で来てくれるまで待ってる！」

耳をそばたてて聞いている女子たち。

チャイムギリギリに眠そうに登校して
くる有馬。

同・クイズ研究会部室前廊下（夕）

廊下が騒がしい。

香澄がガラッとドアを開けると、部室
が女子でいっぱい。

香澄「あらま」

同・廊下（夕）

廊下を歩く聡と有馬に駆け寄ってくる

石田（15）とオタク集団。

石田「大っ変なことになったぞ」

有馬「どしたん？」

石田「外見してみるよお」

同・中庭（夕）

女子チアリーディング部が、可愛いミ
ニスカに、ボンボンを持って、足を思
いっきり上げて練習している。

バスケット部、バレエ部、剣道部などの運動部が男女で中庭を闊歩している。

同・廊下（夕）

有馬「チアカー、いいねえ、学校が華やかに
なってる」

聡「明るい気持ちになるなあ」

石田「事の重大さをわかってねえな！共学
は文化部男子の危機だぞ！」

石田「俺たちオタクにとって、エリート男子
校はユートピアだった。自分の好きなこと
を好きなだけおおっぴろげに話せて、仲間
もできる……まさに楽園……だったのに、
女子の目があると気づいた途端、見るよ俺
らを裏切り運動部に流れこんだ奴らの数
を！こうして文化部と運動部に数の差が生
まれ、そして文化部には大量の女子が流れ
込み占拠され一気に俺ら文化部男子は肩身
の狭いマイノリティと化すんだ……！」

顔を見合わせる聡と有馬。

同・クイズ研究会部室（夕）

香澄を中心に女子たちが部室のガラクタを漁っている。UNO、天体望遠鏡、ツイスター、麻雀、大量の手書きのクイズノート、マルバツ棒など。

同・中庭（夕）

踊っているチアリーダーの脚。

チアリーダー「ファイッオー！」

同・クイズ研究会部室（夕）

女子たちが完全に占拠してワイワイ騒いでいる。真ん中には麻雀しながら卓を囲む香澄の姿。

香澄「これだけいれば、クイ研も安泰安泰。

ロン！」

勢いよくドアが開く。唸、とその後ろには各文系部所属の男子たち。

オタク女子勢とオタク男子勢、目が合う。

聡「あ、青松さん来てくれたんだ！良かった！」

た！」

有馬「お前、心当たりってノ」

女子たち「きゃー！ー！ー！！！」

聡「ひっ」

聡に群がる女子たち。圧倒される男子たち。

有馬、見向きもされず押しやられる。

聡、男子たちに向かって、

聡「無理無理、降参しよう」

有馬「女子高生って何でこんな元気なんだ」

× × ×

部室が整理整頓され、机の上に解答ボタンが何個も置かれている。

明らかに不貞腐れた有馬。

キャピキャピしている女子軍団。

聡「この中でクイ研出身者は手あげてください」

誰も手を挙げていない。

聡「クイズ研究会、通称クイ研はその名の通りクイズについて掘り下げる部で、部活動の時間はひたすらフリバをします」

T「フリバとは：「フリーバッティング」の略。」

クイズの練習形式のひとつで、簡単にルールを設定し早押しクイズを繰り返す意」

聡「今日は体験も兼ねて、早押しをやります」

香澄、有馬の隣にいる。

香澄N「有馬がいるだけで、その場の空気が変わる。まるで百獣の王だ」

聡「7 3×な」

T「7 3×とは：クイズの勝利条件のことで、7問正解で勝利、3問誤答で失格の意」

有馬「限定問題数は？」

聡「30」

T「限定問題数とは：勝敗を決める問題の数」

香澄の鼓動が激しくなっていく音。

香澄 N 「有馬と手合わせするのは、初めてだ」

香澄、ゴクリと唾を飲む。

香澄以外暗転。

難解な公式や単語がバアアアアアアアアアアと香澄の上に降ってくる。カッと目を開く、香澄。

聡 「問題。あつ／」

有馬 「グレシヤムの法則！」

聡 「正解！」

T 『問題…「悪貨は良貨を駆逐す」という名目価値が同じ良貨と悪貨が同時に流通すると、やがて良貨はしまい込まれ、悪貨だけが使われるようになる意味を持つ経済法則を提唱者の名前にちなんで何の法則という？』

香澄 N 「早い……」

x x x

聡 「テディ・ベアの由／」

香澄 「セオドア・ルーズベルト！」

T 『問題…テデイ・ベアの由来となったとされる“テデイ”が愛称のアメリカ合衆国2代大統領は誰？』

聡 「正解！」

× × ×

聡 「真の知識とするためには、実践によって裏づけられていなければならないとする王陽明のノ」

有馬 「知行合一」

聡 「正解！」

× × ×

聡 「これは、何の方程式？」

聡、黒板に方程式を書き出す。

香澄 「トルマン・オツペンハイマー・ヴォルコフ方程式」

× × ×

黒板に、25, 50, 75, 100, 3, 6と書く聡。

聡「問題。この数字のいくつかまたはすべてをそれぞれ一回だけ使って、952にできるだけ近づけなさい」

黒板を真剣に眺める香澄と有馬。

勇輝「∴950？」

聡「式は？」

有馬、 $100 \times (3 + 6) + 50 \parallel 950$ と黒板に書く。

香澄「(眺めながら) ∴いや、952ぴったりに作れる」

チョークを持ち、黒板に式を書いていく香澄。

黒板に書かれた答えは、

$$(100 + 6) \times 3 \times 75$$

有馬「冗談だろ、今23850だぞ」

香澄、ニヤツとして

さらに・50し、

今までの数字を{ }で括り、

$$\begin{aligned} & (100 + 6) \times 3 \times 75 \cdot 50 \\ & \cdot 25 \parallel 952 \end{aligned}$$

952の下に下線をびつと引く香澄。

聡「正解！形に囚われないひらめき力が問われる問題でした。青松さんすごいね！」

有馬「うん、すごい！」

有馬、思わず拍手する。

ポカーンとしている女子たちを見て、

有馬「なあ、聡今日の問題はどんくらいの難易度？」

聡「初心者レベルだね、初日だし」

有馬「全国大会に出れるレベルになるにはどんな努力が必要？」

聡「そうだなあ、とにかく自分の目に映るすべての事柄を楽しみながら知識として吸収することかな。あとここにある先輩たちが作ったノート知識くらいはさくっと覚えることは最低限必要だね」

有馬「てことは聡とはレベルが違うから自主練が多くなるよな？」

聡「まあ、夏の大会までは…そうだね。時々是一緒にできるだろうけど」

有馬「そっか！入っても聡と一緒に部活できるってわけじゃないんだね！」

女子たち「……」

『お邪魔しました』とゾロゾロと部室を出ていく女子たち。

宮崎「キモい猿芝居、何様？男だけの世界では面白いつてチヤホヤされてんのもかもしれないけど、かなりイタイよ」

シーンとする教室。ムカついて、逆に目がぎらつく有馬、

有馬「じゃはつきり言うわ。聡ファンクラブじゃねえんだわクイ研は。俺と聡は、小学校の時から、コツコツクイズやってきた。やっと高校生になって、一緒に出れる大きな大会があるんだ。絶対、俺らは全国優勝するんだ。本気じゃない奴は、邪魔すんな」

宮崎「つぶ。クイズ頑張れば東大行けるんだっけ？受験に関係ないのにマジになってんのって効率悪すぎ」

有馬「効率？…分からのだろうなあ、君みたいなのは知的好奇心の薄い人には、知ることが楽しいって感情が。クイズに、目的も効率もねーよ、ただ純粹に、知ることが楽しくてしようがない奴がやる遊びだ。君こそさ、何の為に勉強してんの？」

宮崎「あんたには関係ないでしょ」

有馬「じゃあ、俺にも突っかかってくるなよ。お受験マシーンなんて、セザールのクイ研と無縁の産物だから」

有馬を睨みつけ、去る宮崎。

香澄、聡、有馬の三人になる部室。

聡「これで、三人ピツタリだ、ね…：ゆう、こちら青松さん」

有馬「知ってるよ。青松、早押しが2テンポ遅い」

香澄「ええ？」

有馬「俺のこと知ってるみたいだったのに、クイ研じゃないの？」

香澄「いや、オンラインクイズやってただけ。クイ研なかったし」

有馬「（ニヤリとし）俺たちは、分かった時点じゃなくて、分かりそうだと思った瞬間にボタンを押してる」

有馬「俺たちは、ただ勝つことには興味がない。そんなものはミクロな世界の相対的な勝ち負けにすぎない。俺たちはもっと絶対的な人間になるべきなんだ」

有馬「だから、明日から特訓でこれからみっちり鍛えてやる」

香澄「特訓ー？」

有馬「俺を、越えるんだろ」

目が優しくなっている有馬。

聡の家・聡の部屋（夕）

香澄、ボタンとコントローラーを同時に手に持ち、スマブラとクイズを同時に必死にやっている。

筆笥の上の写真立てには、聡と有馬の二人、ランドセルをしょって満面の笑みで写っている写真。

聡「2001年に成ノ」

聡が持っているノート『門外不出 クイ研基礎ノート』と書かれている。

有馬「はい！今押す！」

香澄慌ててボタンを押し、

香澄「2001年に、せい？政権？小泉内閣…！構造改革！」

有馬「違う！2001年に“成立”した、だから法律だろ。だからセイ、が聞こえた瞬間俺ならこのタイミングで勝負にでる。2001年といえば、正式名称が長いことで有名なあの法律の名前を聞いている可能性がクイズという性質上高いからな。で、答えは？」

香澄「平成十三年九月十一日のアメリカ合衆国において発生したテロリストによる攻撃等に対応して行われる国際連合憲章の目的

達成のための諸外国の活動に対して我が国
が実施する措置及び関連する国際連合決議
等に基づく人道的措置に関する特別措置法」
有馬「正解。競技クイズは知識を争ってるん
じゃない。期待値のスポーツだ」

香澄「ほお、期待値」

有馬「もう一回」

SNSの通知が届く有馬のスマホ。

『とある高校生』というアカウントが、
『恨んでも恨みきれない。あいつのせ
いで人生めちゃくちゃだ』という投稿。

有馬「……」

香澄「何してるの？」

有馬「え」

香澄が尋ねた先は有馬ではなく、パソ
コンを触る聡。

聡「これ？俺が開発したAツールで、弱点
を入れておくと、対策のクイズを引っ張っ
てきてくれるんだ」

香澄「ほおー！」

聡と香澄はナチュラルに打ち解けあっている。二人と有馬の間の畳が境界線のようになっている。

聡「とはいえ作問自分でするのも大事だから青松も作問してきてよ。俺とゆうはいつも自分の興味ある分野を調べてクイズにして教え合ってるんだ」

香澄「おっけー」

香澄の目線の先、二人の子供時代の写真。

香澄の家・香澄の部屋（夜）

香澄、机に向かい宇宙望遠鏡についてノートにまとめている。香澄の部屋、レオナルド・ダ・ヴィンチの肖像画がポスターのように貼られている。そして部屋はごちゃごちゃしている。

聡の家・聡の部屋

ノートに書いた問題を出し合っている3人。

× × ×

『あと75日』

相変わらず練習している3人。笑顔で
わらいながら問題を出し合っている。

× × ×

『あと45日』

制服が夏服に変わる。ノートを覗きあ
ったりしながら問題を出し合っている。
鹿児島島の歴史&生態系、というノート
を有馬が作っている。

蘭牟田池

私服姿で虫取りに来ている香澄（おし
やれ）、有馬（おしやれ）、聡（ダサ
いテディベアのTシャツ）。目当ての
ベッコウトンボを見つけ、はしゃぎ、
きらきらした目で眺める三人。トンボ
の目。しばし見つめ合い、高く飛んで
いくトンボ。

ファーストフード店

同時刻。宮崎、女子とスマホをいじりながらだべっている。

セザール学園・1 A教室前（朝）

英語版『高慢と偏見』を香澄に手渡ししている聡。

聡「はい、こないだ読んだことないって言うてたから」

香澄「え！ありがとう」

周りの生徒たちが聡と香澄をチラチラ見ている。

男子生徒D「結局才色兼美同士が、カップル一号だよな」

チャイムギリギリに登校してくる有馬、香澄と聡の姿を見つける。

有馬「……」

聡の家・聡の部屋

聡「問題。現在100兆桁まで解ノ」

有馬「おお！良いタイミング！」

香澄「（やる気なく）円周率」

聡「正解。今の問題は、現在100兆桁まで

解読されている数学定数とは？でした」

聡「……もしかして運動神経めっちゃいい？」

香澄「鍛えてるから、ひ弱な君たちとは違っ

てね」

聡「……頼む！俺らにも鍛え方教えてくれ！

俺ら動体視力とか瞬発力がマジで平均以下

で……」

香澄「だろうね、でも嫌だ」

有馬「南海堂のげたんは」

香澄「……」

有馬「一ヶ月分、でどう？」

香澄「3年分で手を打とう。それと、条件が

ある」

静の稽古場

リングの中で次々技をかけている静。

有馬・聡「パッション青松！」

静「なに、あたしのこと知ってんのかい？香澄、ようやくまともな友達ができたみたいだなあ！がははははははは」

道場には厳つい研修生が各々自主トレしている。その中でひたすらパンチン
グマシーンをする香澄。

香澄「条件は守ってよね、口外禁止」

聡「何で隠したいの？最高のお母さんじゃん」

静「みよーなとこで普通であることに拘るんだようちの娘は」

有馬「出る杭は打たれる、でも出過ぎた杭は打たれないらしいぞ、青松」

パンチの力が強くなる香澄。

静「ボーイズ、香澄の真似してみ」

有馬・聡「はい！」

従順にトレーニングをする有馬と聡。
有馬のカバンの中のスマホに大量の通知が来ている。『とある高校生も
う、限界です。実名晒します。大会出

場権剥奪希望』

セザール学園・職員室前廊下（朝）

期末テストの結果が張り出されている。

一位、香澄と聡。有馬、掲示板に名前

なし。やけに学校が騒がしく『有馬』

という単語がちらほら聞こえる。

掲示板を一人眺める香澄。

香澄「何かあったの？」

クラスメイトの女子「井山って人が、SNS

で有馬くんをネットリンチしてるらしい」

山崎が足早に向かってくる。

山崎「みんな、早く教室入れ」

同・1 A教室（朝）

空席の有馬の席を見て、席に着く香澄。

同・校長室

有馬、井山、B組の担任、山崎、校長

の四人。

山崎「とにかく、二人の見解を聞きましよう」

井山「ネットに告発した通りです。僕は有馬くんから中学時代、クイズ研究会でひどい暴言を何度も吐かれ、不登校になりました」

井山「今は少しずつ学校に来れるようになりましたが、中学の時の悔しかった気持ちを風化させてしまっただけは、あの頃の僕が浮かばれない、そう思ったのでネットに書き込みました」

山崎「暴言というのはどんな？」

井山「真剣にやっているのに、ずっと不真面目だと馬鹿にされてきました」

同・1 A教室前廊下

聡「有馬見てない？」

香澄「ジンジンと校長室行って以来、戻ってきてない」

聡「校長室にはもういなかったんだよな」

香澄「思い当たる場所ないの？」

聡「……」

同・中庭

聡と香澄、中庭を足早に横切る。

同・旧校舎

旧校舎のドアが開く。

木造の長椅子に横になっている有馬。

聡「…いた」

聡、香澄、有馬の目線まで屈む。

聡「ゆう、大丈夫？」

有馬「ごめん…」

有馬、泣き出す。

有馬「俺のせいでQチャンの出場禁止になっ
た」

有馬「…ごめんな…俺がダメな人間なばっか
りに…聡、小学校の頃から、ずっと二人で
テレビに齧り付いてみてた場所なのに」

聡「…」

有馬「青松も、せっかく入ってくれたのに」

香澄「…」

立ち尽くす二人。

聡「俺、井山と話してくる」

有馬「いいよ……傷つけたのは事実だ」

聡「こんなのフェアじゃない、近くで見てたから分かる」

香澄「井山って奴は確信犯なの？」

聡「恐らくな」

香澄「……あの手を使うか」

聡「あの手？」

有馬「まさかプロレス」

香澄「チツチツチ。い、ろ、じ、か、け」

同・1 B教室

授業中。

机の下でスマホゲームをしている井山。

山崎「井山、内職してないか？」

先生に気づかれそうになり、慌てて机の奥にスマホをしまう。

井山「……」

机の中に『井山君へ 香澄より♡』と書かれた手紙が入っている。

キョロキョロし、ニヤニヤしながら手紙を開ける井山。

同・旧校舎（夕）

ドアが開く。ワクワクした顔の井山が入ってくる。しかし誰かと目があつた瞬間、真顔になる。

井山「なんだ、お前か」

香澄「初対面なんですけど」

井山「有馬の側用人だろ、東狙いの」

香澄「はあ？」

井山「まあ良いや、どうせどっちかに頼まれて俺に接触してきたんだろ。いいぜ、おっぱい見せてくれれば撤回しても」

祭壇の下に隠れている聡と有馬。

聡の手にはレコーダー。

有馬「なっ！」

聡「シー！」

井山「てかわざわざ何を聞きたいわけ？有馬が目障りだからやっただに決まってんじやん。

俺って、頭良いから？印象操作ってやつで
きちやうんだよね、いじめられたんですー
って泣くのも朝飯前、みたいなの？」

香澄「オツケー、同情の余地なし。おい」

思いつきり殴る香澄。

吹き飛ばされ、目を丸くして驚いてい
る井山。有馬と聡もびっくりしている。

香澄「今のは、同級生からのセクハラに対す
る正当防衛だよなあ」

胸ぐらを掴み、

香澄「向き合えよ！自分に！」

旧校舎の壁に飾られた立派な肖像写真。
男しかない。

香澄「努力してない天才なんてこの世に一人
もいねーんだよ。努力すらしてない奴が一
丁前に人の邪魔してんじゃねえよ」

井山「……じゃあ言うけど、何で君は今一人
でここにいるんだ？君もさ、思ってるだろ
う有馬と東からしたら自分は部外者だって」

香澄「……」

有馬、思わず動こうとするが、

有馬「さっきので、腰抜けた…」

同・校長室

応接デスクの上に置かれたテープレコーダーから井山の声。

校長、山崎、有馬、聡、香澄が応接室に座っている。

ピッと消す香澄。

校長「…」

同・校長室前

香澄「失礼致します」

香澄、有馬、聡三人敬礼してドアを閉める。

有馬「二人とも、迷惑かけてごめん。ありがとう…」

聡の家・聡の部屋

『あと1日』の習字。窓の外は大雨。

テレビのニュース。

キャスター「非常に強い勢力も持つ台風5号は……」

AtoZのエントリーシートを書いて
いる香澄。

香澄「有馬は、今年出るの？」

有馬「出ないよ」

香澄「ははーん、最年少優勝者が負ける姿を世間様に見せたくない？」

有馬「いや、俺高校は、ずっと聡とクイズしてたいから。二人でQチャンを三連覇って誓ってたんだ。だから個人戦には出ない」

香澄「……私は？二人で、て何で？」

有馬「え……」

香澄「聞くまでもないか。電車止まりそうだし、今日はもう帰るわ。あとこの大会ポツキリでもう君らに関わるのおしまいにする」

お菓子を持ってくる聡。

聡「台風やばそうだね、あれ帰るの？」

香澄「うん、お邪魔しましたー」

状況が飲み込めず立ちすくむ聡。

有馬「俺、本当ダメだよな…肝心な時いつ
も言葉が出てこない…」

聡、有馬の目線に合わせ、

聡「どうした？」

聡の家の外の田舎道（夕）

大雨と暴風の中、香澄が傘もささず歩
いている。有馬と聡が、前に香澄が歩
いているのを見つける。

有馬と聡「青松！！」

振り返り、そして走る香澄。

有馬「止まれよ！」

香澄「やなこった」

有馬「待てよ、待てっつってんだろう！青

松！」

立ち止まらず、走っていく香澄。

暴風雨の中、走る。

暴風雨の中、走って、走って走りまく
る。

ぬかるんだ道で派手にすっ転ぶ香澄。

香澄「……」

泥だらけの香澄。足は擦りむいて血がでている。

香澄に追いつく聡と有馬。

聡「青松、大丈夫？……！」

ハンカチを取り出して、傷を拭こうとする聡。

香澄、聡を背負い投げして、脇の田んぼに突っ込む聡。

聡「！」

香澄「…放っとけばかやるー！女扱いすんな！」

ポロポロポロと泣いている香澄。

涙に、ハッとする有馬と聡。

香澄「何で…？何で私は仲間として認めてくれないの？勝手に男女で線引きして、勝手に見下して、馬鹿にすんなよ」

有馬「……」

田んぼに自ら入っていき、泥だらけになる有馬。

香澄「何してんの」

泥だらけで、香澄の前に正座する有馬。

有馬「本当にその通りだと思って。今までの俺は間違ってた……俺が青松なら、すごいむかつくと思った。だから、ひっぱたいてくれ」

バチーン、と容赦無くひっ叩く香澄。

有馬「本当に、悪かった。女子のレッテルを貼って、青松という人間に不快な思いをさせた。ごめん。青松に会うまで、考えもしなかったんだ、馬鹿だよな」

有馬「信じてほしい、俺は青松香澄という人間のことに、本当に尊敬してるってことを。」

本当に大切な仲間だと思ってるってことを」

聡「俺もごめんね……青松の涙で目が覚めた。」

（大きく息を吸い）俺は、二人の化け物を目の前に自分の凡人さと戦ってるぞ！はあー！言ってスッキリした」

有馬「俺だって：本当はお前らがいい奴すぎて、自分が恥ずかしくて：昼間笑って、笑えなくなったら学校で寝て、そんで家で一人で泣いてたんだぞ」

自分の涙をゴシゴシ拭く香澄。

聡「明日は、圧勝しような、三人で」

聡の家・聡の部屋（夜）

『雲外蒼天』という金文字の入った硯で墨を磨り下ろす手。

正座した聡、『あと0日』と書く。

鹿児島市民文化ホール・外

南国の快晴。

聡、有馬をおぶって連れてきている。

有馬、冷えピタを貼って苦しそう。

香澄「どうしたの!？」

聡「熱がある」

ハッとする香澄。

有馬「こんなの平熱だ。大丈夫。勝つだろ、俺たち」

鹿児島市民文化ホール・大ホール

客席には、セザール学園の中学生が大勢、香澄ら三人のファンクラブうちわを持ってそわそわしている。チア部もいる。客席には静と修の姿もある。

司会者「問題。これは何を表している？」

集中して画面を見る有馬、聡、香澄。

絵が1枚、2枚と順に画面に出てくる。

2枚目が見えた瞬間、ボタンを押す有馬。

有馬「ウエストファリア条約！」

正解音。

司会者「なんとというスピードだー！これが、

皇帝有馬勇輝かー！！」

正解音と共に盛り上がる会場。

司会者「問題。この格言、英語で何と言う？」

画面が見えた瞬間に、

聡 「It is better to be a human being dissatisfied than a

pig satisfied; better to be Socrates dissatisfied than a

fool satisfied.」

正解音。客席からは黄色い歓声。

司会者 「何とまあセザール学園の得点！クイズの貴公子、東聡君！みなさん彼が全国区に見つかる前に、応援しましょうね！」

セザール学園・職員室

山崎 「そろそろ決勝ですね」

山崎がテレビをつけると、大谷翔平が

ホームランを打つ瞬間。

チャンネルを変えると、藤井聡太が将棋を指している。

またも変えると米田あゆの会見映像。

さらにチャンネルを変えると香澄が正解した瞬間。三人ハイタッチしている。

山崎 「青松は本当に強い子だ。青松、先生が

間違ってたな」

教師A 「有馬たちは、どうですかね？」

山崎「彼らは、どんな相手だろうがきつと勝ちます」

香澄がドアップになる。テレビの中。

司会者「セザールは今年から共学ですね？どうですか？」

有馬「先生方が一番あたふたしてますね」

司会者「あはは、同じ質問で先生方はなんて言うかな？それでは、最終問題は、CMの後！」

CMに入るテレビ。

山崎「お前が言うか、有馬」

鹿児島市民文化ホール・大ホール

司会者「高校生クイズ・ザ・チャンピオン、鹿児島県代表決勝戦。ここまで一問も失点せず王手をかけている、セザール学園。対する、鶴岡高校は食い止めることができるのか？それでは、参りましょう。問題」

ジェームズ・ウェップ望遠鏡の実物大が会場に現れる。

どよめく会場。

司会者「こちらは2021年に打ち上げられた世界最大の宇宙望遠鏡、ジェームズ・ウェッブ望遠鏡の実寸大となります。まずはみなさん、近くで見てください。触っても大丈夫ですよ」

舞台の上の生徒6人、興味津々に眺める。

司会者「この宇宙望遠鏡は135億年前に誕生した、最初の星を捕捉することを目的として、現在宇宙を旅しています。現代人の叡智の集大成がこの望遠鏡に詰まっているわけですが、今日はこの18枚の星六角形の鏡に着目してみましょう。可視光だけでなく赤外線を捉えるように設計されており、私たちの目では捉えられない宇宙の姿を映すことを可能にしているものです。ここで、最終問題です。この望遠鏡における赤外線の役割が一体何なのか、説明しなさい」

顔を見合わせる香澄ら三人。

司会者「名前は知っていても高校物理では赤外線の利用方法についてを教わることはありませんからね。日常で何気なく出会う言葉や知識に対する、知的好奇心の広さ、深さが問われる問題です」

対する鶴岡の生徒、お手上げの様子。

客席。静が立ち上がる。

静、中に来ていたプロレス服姿になりセザールの中学生と一緒に『“圧倒的に勝つ”それがセザール学園だ!』と書かれた横断幕を広げる。

静と香澄、親子の絆の見つめ合い。

香澄、聡と有馬にヒソヒソ話し始める。

ペンを握りスラスラと書く香澄。

× × ×

司会者「TIME UP! それでは、回答ー
斉オープン」

回答が分かれてている。

香澄の心臓の音。

クイズ台の裏、手を繋ぐ三人。

静、修、中学生たち。

会場に響き渡る正解音。

司会者「セザール学園、正解！ウイニングア
ンサー、答えたのは、セザールのジャン

又・ダルク、青松香澄！」

湧き上がる会場。固く抱き合う三人。

涙する静と修。

司会者「優勝、セザール学園！決勝戦、前代
未聞の完封試合！なんとという強さだ、何と
いう頭脳だ！これが全国で南の刺客と謳わ
れている、名門校の勝ち方だ————！」

セザール学園・職員室

バンドナを取り、バンドナで涙を拭う

山崎。拍手している教師A。テレビの
中、

香澄「私たちの夏はこれからです」

【了】